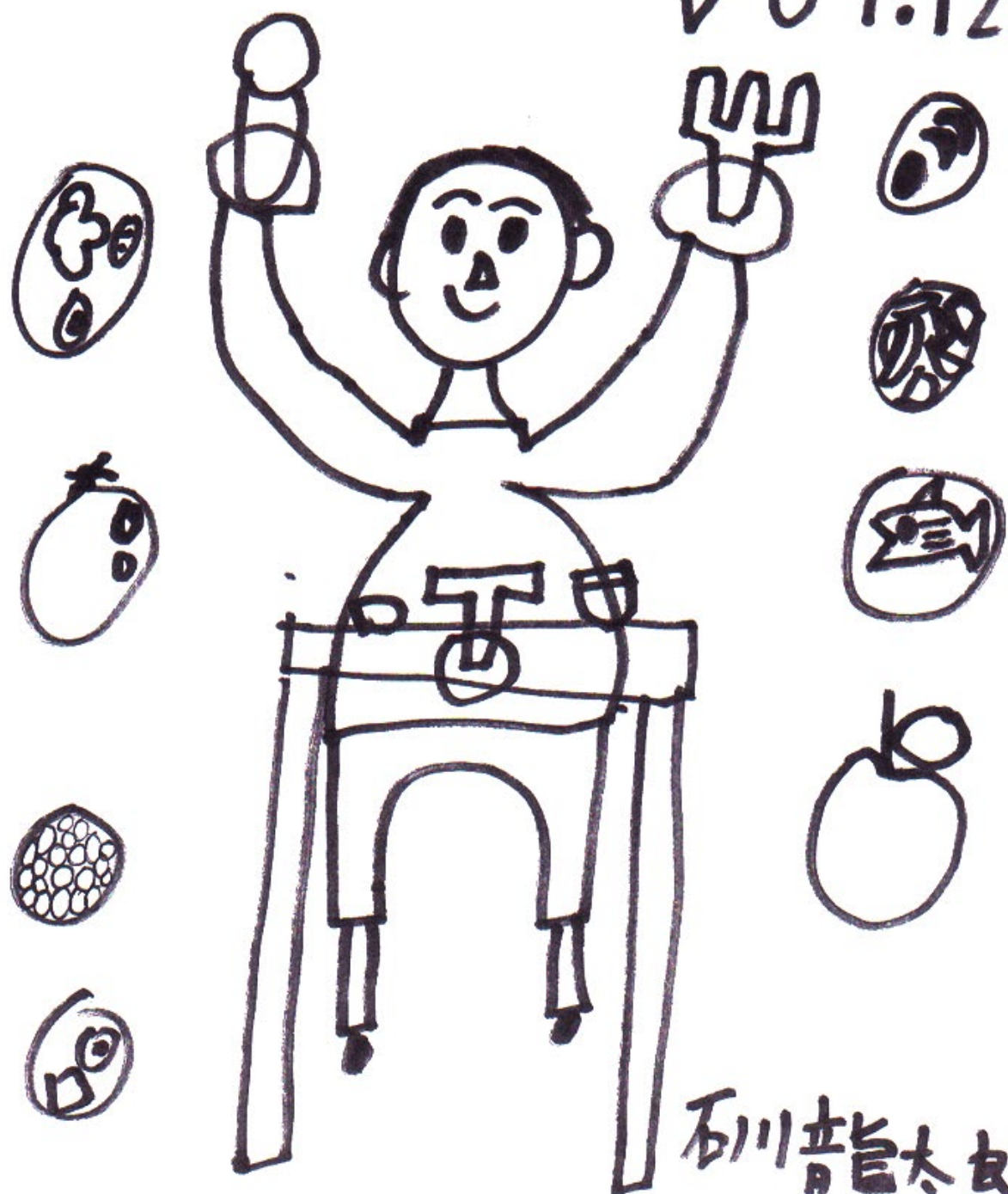


とよ・たち
美肌通信

10月号
Vol.123



石川龍太郎

October



今月号のとびこち美肌通信の

表紙はおいしそうに食べ物がたくさん!

秋はおいしい食べ物が多くて、たくさんで
食べあましてしまえば♡♡ 元気モリモリ!!!

読書 (かいけつゾロリやおぼけずかんなど) をする事
がしゃみで、バスケットボールや空手が
得意な男の子が描いてくださいました。

ありがとうございます。

院長はじめスタッフ同

バリエリ感謝いたします



令和2年9月現在においても、東京では連日100~200人前後のCOVID-19新規患者が発表されており、スペインでは再度爆発的にその患者数が増加していると報道されている。この現実を受けて個人的には「その時」というワードが思い出されるのである。「その時」とは我が身边にCOVID-19が来た時である。でも、それからは既に遅い。完全にアウトである。だから予防するのだ。当院では、現時点で通院されている患者と職員及びその家族を守るため、各種受診に関する制限を設けている。

院内での密を防ぐため院内での待合人数を制限している。換気の徹底も行っている。

このことにより、職員の仕事量は以前の数倍にも増す様になった。

人生には三つのさかがあるという。上り坂、下り坂、そしてまさか。

上り坂や下り坂の時は、そういう坂に来たのだと

心の準備ができ様。しかし突然くるまさかは準備する余裕がない。まさかは人生最大、最難の瞬間と言え様。そしてその時どう動くか。

東日本大震災とCOVID-19感染症はこの約10年の間に起きている。この間も日本列島では、毎年の様に複数の天災に見舞われている。平時から、まさかのその時に対応出来る修練が必須である。

この覚悟で生きている人は、あらゆるまさかを超えていくことになる。

禅の言葉に「^に今^ん」というのがある。

人生には今というこの時しかない。一瞬一瞬が真剣勝負という教えだ。だから「その時」は突然くるのではない。今がその時であり、その時が今なのである。この自覚を平時からも、日々を努める。

今もってCOVID-19は収束の糸口がないのが現実である。これから冬を迎えインフルエンザとの二重感染も懸念されている。

我々はイソップ童話の「アリとキリギリス」の後者になつてはいけなない。

院長、拝